

デジタルカメラの用語(日本版)---レンズ PDF转换可能丢失
图片或格式，建议阅读原文

https://www.100test.com/kao_ti2020/207/2021_2022__E3_83_87_E3_82_B8_E3_82_BF_E3_c29_207241.htm F / 放F --- レンズの明るさを表す数。数が小さいほど明るく、暗い所での撮影に有利。速いシャッターで手ブレを防いだり、背景をぼかしたりできるメリットがあります。ズーム(光学ズーム) --- 写る(画角といいます)をえて、いを写したり、くのを大きく写したりする。く写す方を角、大きく写す方を望といいます。焦点距(しょうてんきょり) --- レンズの理上の中心からピントをぶ点までの距のこと。焦点距がいと写るが狭く(望)なり、短くなると写るがく(角)なります。35mm判算(はんかんさん) --- デジタルカメラで像を感知するCCDは、35mm判フィルムと大きさがいます。そのため、写る(画角)を35mm判フィルムカメラに算した焦点距を表示しています。35mm判では、焦点距50mmが人が自然にものをるに最も近いといわれています。レンズ成(こうせい) --- 写真レンズでは、性能を上げたりズームをみむために、数枚のレンズをみ合わせています。そのみ合わせ方によって、7群8枚というように表示されています。EDレンズ --- EDとはExtra-low-Dispersionの略で、“特殊低分散”という意味。EDガラスを使ったレンズをEDレンズといい、特殊低分散性を利用して、特に望で大きくなりやすい色差を正するために使われます。非球面レンズ --- 普通のレンズの表面は球面のカブを持っていますが、球面でないカブを持つレンズを非球面レンズといいます。非球面レンズをみむことに

よって、レンズ枚数を少なくすることが可能となり高性能でコンパクトな写真レンズをつくることができます。解像力(かいぞうりょく) --- かな画像をどれだけ写しこめるかという基。像の明度(コントラスト)とのバランスで画像がくっきり写せるかどうかがまります。マルチコティング --- レンズはすべての表面で光を反射し、透する光が失われます。その反射を抑え、明るくクリアな画像をつくるために、レンズ表面に施されるのがコティングです。光の波などに合わせて数のコティングが施されたものをマルチコティングといいます。ゴスト/フレア --- カメラを太の方向に向けたときなど、多角形の光の像ができるものをゴスト、画面全体に白い膜がかかるように写るのをフレアといいます。いずれもレンズの表面反射によって起こるもので、マルチコティングによってこの象を抑えることができます。差(しゅうさ) --- 光がレンズを通してCCDやフィルム面に像をぶ、さまざまな像の乱れや歪みが生じ、理想的な像との「ずれ」が生じます。これを差といいます。差には球面差、非点差、像面差、歪曲差、コマ差、色差など々なものがあり、レンズ性能がよいほどそれらを抑えることができます。色差(いろしゅうさ) --- 光の波によりガラスの屈折率がなることが原因で、色によって像位置がずれ、色がにじんだようにれること。歪曲差(わいきょくしゅうさ) --- 撮影した画像の直が歪む象。樽のように歪みまる「樽型差」は角でみられ、糸きのように伸びてしまう「糸き型差」は望でみられます。球面差(きゅうめんしゅうさ) --- レンズが球面であることから、光が点に像しないで少しがり、に像す

る象。非点差(ひてんしゅうさ) --- 光が点ではなく、と横にわかれ、と横のピント位置がずれること。コマ差 --- 光学系の外からの光束が像面で一点に集まらず、彗星の尾のようにがる「ずれ」。レンズフード --- レンズに入りむ有害な光をカットするためのフード。ハレーションやフレアの生を防ぎます。大口径で明るいレンズや、望撮影には特に有です。コンバジョンレンズ --- カメラのレンズの前に取りつけて、写るをえることができるアクセサリです。ワイドコンバジョンレンズを付ければよりのものが写しめ、テレコンバジョンレンズを付ければくのをより大きく写せます。クロズアップレンズ --- カメラのレンズの前に取りつけければ、小さなものを大きく写しこめます。カメラだけの合より、写すものにより近づいて撮影できます。MCプロテクタ --- カメラのレンズの前に取りつけて、レンズを保するフィルタです。NDフィルタ --- 晴天の雪山や夏の砂浜など被写体が明るすぎるとき、光量をらして白トビを防ぎます。光フィルタとも呼ばれ、意的にりをきたいとき、シャッタ速度を低下させたいときにも使用します。100Test 下载频道开通，各类考试题目直接下载。详细请访问 www.100test.com